

先月はトリノ冬季オリンピックのテレビ中継のため毎日が寝不足でした。日本選手のメダルがなく半ば諦めていた時に、起死回生のニュースが飛び込んできました。

期待の女子フィギュアスケートで荒川静香選手が金メダルを獲得した事です。この快挙で日本人の心が一変に明るくなったと思います。荒川選手から学んだ事は「平常心」でした。他人の出来・不出来は気にせず、今までやってきた己の演技に集中する事でした。それが大舞台で実力を発揮できる術と思いました。

さて話は変わって、

3月中に風疹ワクチンを受けて下さい。

4月から有料になります。

これまで麻疹と風疹は別々に予防接種がありました。それが麻疹・風疹の予防接種法が改正になり、平成 18年 4月 1日から麻疹と風疹の予防接種は、麻疹(M)・風疹(R)混合ワクチン(MR ワクチン)となります。今まで麻疹ワクチンと風疹ワクチンは別々に、1歳から7歳半まで接種可能でした。

MR ワクチンは 2 回接種になり、

① 第 1 期を生後 12 ヶ月から 24 ヶ月未満まで(2歳未満)

② 第 2 期を 5 歳以上 7 歳未満であって就学前の 1 年間(幼稚園児、年長児)

が対象となります。(②は第1期の MR ワクチンを受けた子が対象)

従って、4月1日の時点で1歳以上の子で、例えば麻疹ワクチンは受けているが、風疹ワクチンをまだ受けていない子は、4月以降は風疹ワクチンを無料では受けられなくなります。有料になるのです(5,000円+α)。

風疹は「3日ばしか」と言われ、全身に発疹が広がるはしか(麻疹)に似ている病気です。

また発熱、耳や頭の後ろのリンパ腺が腫れるのが特徴です。風疹は、麻疹ほど重症にならないため、一般に注目度が低いのです。



しかし、一番重要なことは、妊娠初期の妊婦が感染すると流産・死産の原因となる他、「**先天性風疹症候群**」の子供が生まれます。**30年前に沖縄でも大流行し、多くの子供たちが犠牲になりました。** 特徴は、難聴(耳)、白内障(目)、先天性心疾患(心臓)が3大症状です。

10年前までは、中学2年の女子のみを対象に集団予防接種を行なっていましたが、現在は1歳から男女区別なく接種しています。

風疹に対する免疫抗体があるかどうかは、妊婦さんを対象に、必ず産婦人科では調べます。現在、風疹抗体を持っている人の率が低く、いつでも流行する危険性があります。妊娠可能な女性の抗体率もかなり低いとされ今後が心配です。

妊婦が風疹にかかった時、パニックになる様子を想像することはそう難しくはありません。墮胎するか、先天異常を心配しながら妊娠継続か、判断に迷うと思います。そうならないためにも決められた時期に、皆が風疹ワクチンを受ける必要があります。社会全体の問題にして欲しいのですが、行政は「麻疹」ほど力を入れていないのが現状でしょう。備えあれば憂いなし、風疹ワクチンを受けていない子は、是非、今月中(3月)に受けるようにして下さい。お願いします。 たまなほ